



募金活動のお知らせ：《マリー・バシュキルツェフの胸像》展示に伴う、
ウクライナの美術館、博物館の復興支援について

国立西洋美術館（東京都台東区上野公園7-7、館長 田中正之）は、ウクライナ生まれの女性芸術家マリー・バシュキルツェフを表した肖像彫刻（シャルル＝ルネ・ド・ポール・ド・サン・マルソー作）の展示に関連し、ウクライナにおける危機に際し困難な状況に見舞われた美術館・博物館の復興を支援するため、本年4月末より募金活動を開始しました。これはICOM（国際博物館会議）*によるウクライナの美術館・博物館と文化遺産の保全・復旧のための支援活動に賛同しておこなうものです。

活動期間中（2022年4月29日～未定）、本彫刻作品を常設展内（新館2階第5展示室）にて展示し、また本館1階ロビーのインフォメーション・デスクの向かいに、募金箱を設置いたします。いただいた募金は、ICOM日本委員会を通じ、フランスのICOM本部に全額寄付され、ICOMウクライナにより同国内の美術館・博物館の支援のために使われます。皆様のご協力、ご支援よろしく願いいたします。

* ICOM は、博物館・美術館に関する世界で唯一かつ最大の非政府組織で、世界138か国・地域から3,000以上の博物館・美術館が加盟しています。



本館1階ロビーの募金箱

■作品について



シャルル＝ルネ・ド・ポール・ド・サン・マルソー
《マリー・バシュキルツェフの胸像》

1895年頃

大理石

94 x 50 x 33 cm

松方コレクション

S.1959-0063

本作のモデルとなったバシュキルツェフは、1858年にウクライナで貴族の家系に生まれ、フランスで活躍した画家です。パリのアカデミー・ジュリアンで学びつつ、バステアン＝ルバージュに代表される当時の自然主義的傾向を取り入れ、主として女性や子どもたちの肖像画・風俗画を描きました。しかし、今日彼女の名を知らしめているのはむしろ、25歳の若さで世を去るまで書きためられた膨大な「日記」でしょう。異邦人、女性、そして芸術家としての顔をもった個人の内面を、同時代の社会の諸相とともに繊細かつ情熱的な筆致で活写した日記は、彼女の死後に公刊され、その一生を神話化することとなります。フランスの彫刻家サン・マルソーの手によるこの彫像は、バシュキルツェフの霊廟を飾るために制作された作品に基づくヴァージョンのひとつと思われます。

※その他詳細については所蔵作品データベース参照
<https://collection.nmwa.go.jp/S.1959-0063.html>

■報道関係お問い合わせ先

国立西洋美術館 広報事務局

株式会社ユース・プランニング センター内

TEL：03-6821-8229 E-mail：nmwa(at)ypcpr.com

(受付時間：平日 10:00～18:00 ※土日祝日・年末年始等の対応はしていません。)